

I . 業績概要

平成28年度決算のポイント

預貸金

収益の基盤となる預金残高・貸出金残高は、ともに堅調に増加

・ 預金+NCD残高	7兆5,959億円	(前年度比 + 3,837億円)
うち個人	4兆3,865億円	(前年度比 + 1,332億円)
うち法人	2兆1,851億円	(前年度比 + 1,919億円)
うち金融・公金	1兆242億円	(前年度比 + 585億円)
・ 貸出金残高	4兆9,869億円	(前年度比 + 3,805億円)
うち中小企業等貸出	3兆3,323億円	(前年度比 + 1,617億円)

収益

純利益は連結・単体ともに業績予想の水準を確保 (業績予想)

・ 当期純利益 (単体)	177億円	(175億円)
・ 親会社株主に帰属する当期純利益 (連結)	186億円	(181億円)

2. 平成28年度決算概要

(単位:億円)

	27年度	28年度	前年度比
業務粗利益	864	802	△62
資金利益	704	655	△49
役務取引等利益	89	82	△7
その他業務利益	70	63	△7
うち国債等債券損益	60	62	2
経費	572	585	13
業務純益	292	216	△76
コア業務純益	232	154	△78
臨時損益	21	34	13
うち不良債権処理額 (A)	5	2	△3
うち貸倒引当金戻入益 (B)	9	10	1
うち株式等・金銭の信託関係損益	△2	17	19
経常利益	314	251	△63
特別損益	△1	△1	0
当期純利益	204	177	△27
信用コスト (A)－(B)	△4	△7	△3
＜参考＞			
親会社株主に帰属する当期純利益	213	186	△27

業務粗利益

貸出金残高は大幅に増加したものの、運用利回の低下により、資金利益が減少

経常利益・当期純利益

業務粗利益の減少を主因として、経常利益、当期純利益ともに減少したものの、当期純利益は業績予想の水準を確保

3. 平成29年度決算見通し

(単位:億円)

	28年度	29年度 (予想)	前年度比
業務粗利益	802	786	△16
資金利益	655	652	△3
役務取引等利益	82	103	21
その他業務利益	63	31	△32
うち国債等債券損益	62	24	△38
経費	585	591	6
実質業務純益	216	195	△21
一般貸倒引当金繰入額 (A)	—	△3	△3
業務純益	216	198	△18
コア業務純益	154	171	17
臨時損益	34	40	6
うち不良債権処理額 (B)	2	8	6
うち貸倒引当金戻入益 (C)	10	—	△10
うち株式等・金銭の信託関係損益	17	44	27
経常利益	251	238	△13
特別損益	△1	18	19
当期純利益	177	180	3
信用コスト (A)+(B)-(C)	△7	5	12
<参考>			
親会社株主に帰属する当期純利益	186	187	1

業務粗利益

運用利回の低下による資金利益の減少や国債等債券損益の減少を見込むが、預かり資産収益を中心に役務取引等利益の増加を計画

当期純利益

年金制度の一部をDCへ移行することに伴う特別利益の発生もあり、最終利益は、単体・連結とも前年度を上回る水準を見込む